

学内研究組織（2024年度）

研究課題：「短期留学生プログラムのためのエンロールメント・マネジメント」

ベトナムの日本語学習者に向けた日本短期留学プログラム開発に向けた基礎調査

A Preliminary Study on the Development of a Short-Term Study Abroad Program in Japan for Vietnamese Learners of Japanese.

春口 淳一 (Haruguchi Junichi)

本研究は、求められる短期留学プログラム像とはどのようなものかを知り、受け入れる日本の大学等教育機関に対して提言することを最終的な目標とする。プログラム参加の予備軍となる海外日本語学習者が留学先選定にどのような意識を持っているのか、また彼ら彼女らへ日本語を教える教師陣がどういった期待を日本留学に寄せているのかを尋ねることを、直接の研究行動とする。

24年度の学内研究組織として研究活動は、ベトナム・ハノイをフィールドに調査を展開した。主とする訪問先は、Vietnam-Japan University（以下、日越大学）である。研究機関内に、現地へは、24年9月（6~9日）と25年2月（17~22日）の2度足を運んだ。

だが24年9月は、渡航した日の翌日から大型台風YAGIに遭遇する不運に見舞われた。ホテルから身動きが取れず、予定していたインフォーマントとの面談の多くは見送ることを余儀なくされたが、それでも台風一過の翌日には、その後の研究協力者となるNguyen Thi Ngoc Anh氏（現在は日越大学常勤講師、以下Anh氏）との直接対話の機会を得たほか、日越大学の日本語教師3名とも交流し、以降の研究協力の要請、また当地、特に日越大学の日本語教育事情などを伺った。

日本語学習者を対象とするアンケートはその間作成を続け、これを対象者の母語であるベトナム語に訳す作業をAnh氏に委託した。25年2月の訪問時には、Anh氏と直接対面し、その微調整を行う場ともした。

25年2月の訪問は、それと同時に、アンケート協力機関の開拓も目指した。フェニカ一大学、ハノイ工業大学をそれぞれ訪ね、アンケート調査の協力依頼を行い、了解を取り付けた。このアンケート調査は、現在（25年9月）実行中であり、並行してさらに協力機関を増やすべく、Anh氏やそのほかの知人を介して開拓している。

また25年2月出張のもう一つの目的は、ベトナムの大学日本語教師を対象にインタビュー調査を実施することである。現職の日本語教師10名（一部は、当時日越大学の修士課程に在籍）の協力を得て、一人当たり40分程度のインタビューを実施した。その成果は現在検証中だが、所属機関がベトナムの大学でも入学難易度が中程度であることから、学生の送り出し先については大学のブランディングに偏った要望ということではなく、費用面とプログラム内容への関心の高さが目立った。今後はインタビュー・データにつ

いて、文字化したものをテキストマイニングなどにより、その特色を整理し、発信する予定だ。また学習者を対象としたアンケートの集計結果とも比較検討する材料としたい。